

令和7年度横須賀三浦地域首長懇談会の概要

開催日時 令和7年8月28日（木曜）10時00分から12時00分

開催場所 逗子市役所 5階 第2、3会議室

出席者

市町		県	
横須賀市長	上地 克明	知事	黒岩 祐治
鎌倉市長	松尾 崇	政策局長	中谷 知樹
逗子市長	桐ヶ谷 覚	文化スポーツ観光局長	今井 明
三浦市長	出口 嘉一	環境農政局長	尾埜 美貴江
葉山町長	山梨 崇仁	健康医療局長	足立原 崇
		県土整備局長	池田 一紀
		横須賀三浦地域県政総合センター所長	大場 勇人

概要

1 開会

ただいまから、令和7年度横須賀三浦地域首長懇談会を開催いたします。

それでは最初に黒岩知事からご挨拶申し上げます。

2 知事あいさつ

本日は大変お忙しい中お集りいただきまして誠にありがとうございます。また会場をご提供いただきました桐ヶ谷市長、どうもありがとうございます。

さて、地域単位で行っており、この首長懇談会は、地域の課題について私と首長の皆さんで、率直に意見交換をする場であります。本日は広域的な課題の解決に向けた連携のあり方～三浦半島魅力最大化プロジェクト等の推進～を中心に意見交換を行うことになっております。県としましても、必要に応じて来年度の予算編成に向けた対応を図れるよう、この時期に開催をしております。地域の実情を踏まえた率直なご意見をいただきたいと思います。

なお、後半には各市町の話題、課題といたしまして、来年の予算の話をしていただきます。各市町におかれましては、神奈川県市長会「令和8年度県の施策・制度・予算に関する要望」及び神奈川県町村会「令和8年度施策・予算に関する要望」にも盛り込んでいただきまして、県としては、令和8年度当初予算案が議決された後、市長会及び町村会に対し書面で回答させていただきます。

次に意見交換に先立ちまして、県内経済に影響を与えるおそれのある米国関税及び日産自動車生産縮小について申し上げます。

米国関税は先月15%の相互関税、自動車及び自動車部品に対して15%の関税率とすることで合意がなされました。また、特にこの三浦半島地域への影響が懸念される日産自動車追浜工場での車両生産終了について、車両生産を令和9年度末に、日産車体湘南工場への車両生産委託を令和8年度末に、それぞれ終了することになりました。また、日産車体は、湘南工場を閉鎖せず従業員の雇用を維持する方針と聞いております。

県内中小企業はすでに物価高騰等により厳しい経営環境に置かれている中で、今後、これらの影響が顕在化してくると、更に厳しい状況に直面しかねません。

そこで国、県、市町村と支援機関が一体となり、「オール神奈川」で中小企業を支えていくため、対策協議会を設立するとともに、日産自動車追浜工場の生産終了については、雇用や地域経済に関し、国、県、市の関係行政機関と日産自動車情報共有等を行うための関係行政機関連携本部も設置をいたしました。

今後も、事業者の影響や課題を把握するためのアンケートの実施や支援策をまとめたリーフレットの作成等をはじめ、効果的な施策等を検討してまいりますので、引き続きご協力をよろしくお願い申し上げます。本日は地域の課題について率直に意見交換し、充実した時間を過ごしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

3 逗子市（開催地）桐ケ谷市長あいさつ

皆さんこんにちは。逗子市長の桐ケ谷でございます。逗子によろこそお越しいただきました。黒岩知事をはじめ、県幹部の皆さんにおかれましては、日頃より、県内様々な課題解決に向けて、市町との連携を進めていただいておりますことに感謝を申し上げます。

まだまだ暑い日が続いております。逗子海水浴場におきましては、今週末まで開催をしているところであります。まだ大きなトラブルもなく、例の津波警報には驚きもしましたが、幸いに、その海水浴場に関しましては、適切に処理もできたと考えているところであります。今回は、三浦半島魅力最大化プロジェクトというテーマでございまして、皆さんともしっかりと意見交換をしながら、さらに連携を図ることができればと思っているところであります。本日はよろしくお願いいたします。

4 意見交換

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

本日の議題といたしまして、広域的な課題の解決に向けた連携のあり方として、この3月に改定した三浦半島魅力最大化プロジェクト等の推進をテーマとして議論をさせていただきたいと存じます。それではまず、神奈川県政策局長より三浦半島魅力最大化プロジェクトの概要についてご説明いたします。

【政策局長】

政策局長の中谷でございます。日頃から県政へのご理解、ご協力誠にありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。

私の方から、三浦半島魅力最大化プロジェクトをご説明させていただきます。1ページでございますけれども三浦半島を取り巻く状況といたしまして、直近のデータ等を紹介させていただきます。入込観光客数につきましては、コロナ禍と比較いたしまして上昇傾向、特に横須賀市さんでは、過去最高を昨年更新したと聞いておりますけれども、コロナ前と比べると、三浦半島全体では、まだ低い状況にございます。日帰り観光客、こちらも以前と比べると増加傾向、日帰りの割合が多い状況。

そして、社会増減数も一度、コロナ禍に、三浦半島全体でプラスに転じたのですけれども、また東京都心回帰ということでマイナスに転じております。そうしたことから、三浦半島地域のポテンシャルを生かした取組が必要なのではないかというふうになっております。

その上で、神奈川県と三浦半島魅力最大化プロジェクトを展開しております。プロジェクトの概要でございますが、観光の魅力と半島で暮らす魅力、こちら大きな柱を二つ添えて、4つの魅力を最大化するという内容でございまして、地域の活性化を図ろうとするものでございます。プロジェクトの内容でございますが、観光の魅力を高める、半島で暮らす魅力を高めるという、この2つの柱のもとに海・食の魅力を高める、そして地域の魅力を高めるこの2つの取組、そして半島で暮らす魅力のもとに働く魅力を高める、住む魅力を高める、この4つの取組を展開していこうというものでございます。

ここから、その4つの具体的な取組をご紹介します。まず1つ目の海・食の魅力を高める取組でございます。ご覧のとおり、三浦半島、マリンスポーツの普及を図って三浦半島のブランド化を図るとしてあります。そして、三崎漁港を中心に新たな開発計画も立ち上がっております。そして新たな海からの交通手段として、かながわシーライドを、昨年の3月から展開しております。こちらについては後ほど詳細にご説明いたします。その他の海・食の魅力を高める取組として、三浦半島はイタリア半島プロジェクト、こちら後ほどご説明いたします。また水産技術センターでキャベツウニのブランド化を図っております。またそごう横浜店の地下に、アンテナショップかながわ屋を設けまして、地場製品のPR、情報発信をしております。

次に2つ目、地域の魅力を高める取組といたしまして、本県は、横浜、鎌倉、箱根に次ぐ第4の観光の核となる新しい観光拠点をということで、新たな観光の核づくりに努めておりますが、その神奈川県第1号として、平成24年に城ヶ島・三崎地域を認定し、それから十年来、推進してきており、そうした取組もあって、最近では民間の動きとして、ふふ城ヶ島が来年の春までに開業と言っておりますけれども、いろいろな新たな動きも出てきているといった状況でございます。

その他の地域の魅力を高める取組といたしましては、電動モビリティマースの推進、そうしたことによって周遊性の促進を図ったり、湘南国際村のB・C地区を利活用して、インターナショナルスクールが入る見込みとなっておりますし、小網代の森、こういった地域資源をさらに磨き上げて、さらに地域振興を図っております。

3つ目、働く魅力を高めるものとしたしましては、政府のほうも交流人口でもない移住人口でもない、その中間にある関係人口、これを高める、増加する取組に力を入れるということになっておりますけれども、本県も都市部人材を活用した副業プロジェクトを今年度から行っております。それ以外にベンチャー企業などを支援するHATSU鎌倉、これを拠点にして起業家を支援しております。

4つ目、住む魅力を高める取組といたしましては、今年度から三浦半島に移住コンシェルジュを置かせていただいております。もともと、東京にはちょっと田舎かながわライフ支援センター、こちらを拠点に置いておりますので、三浦半島の市町の皆さんの移住施策と連携して移住を促進していきたいと考えています。また、大学生などの若者をターゲットにお試し居住をする、ふるさとワーキングホリデー、こういった取組も今年度から取り組もうと考えております。

そして、これまでも市町の皆さんと連携する取組だったのですが、三浦半島魅力最大化プロジェクトには、横須賀市さんの浦賀ドッグの取組やアーバンスポーツ、鎌倉市さんの取組、逗子市さん、三浦市さん、葉山町さんのこういった市町主体の取組も位置づけしまして、連携を図ろうと考えております。その中で、特にウィンドサーフィンワールドカップ、これは、かねてから三浦市さん、横須賀市さんを中心に、横須賀市がメイン会場、三浦市さんサブ会場という形で県も連携して取り組んでおります。直近では14万を超える観戦がオンラインを含めてあったという状況でございます。

ここからは、県の取組でございまして、冒頭でご紹介いたしました新たな海洋ツーリズムとして、これまでも海上タクシーやチャータークルーズなどの実証事業を重ねてきたところでございますが、昨年の3月から、かながわシーライドと称しまして、湘南港を中心に海からの移動手段を提供しております。ただ、東は三浦まで、西は大磯まで就航しているのですが、その先の小田原漁港、江之浦漁港、真鶴港、こちらも新たに、新規航路を開拓するために、今、実証実験を重ねているという状況でございます。

また、交通ネットワークの整備といたしまして、西海岸線の整備にも新たに着手しておりますし、地元の取組が盛り上がってきたということを確認して、令和2年から、知事の判断のもと、城ヶ島大橋の通行料を無料化したというところでございます。また、神奈川版ライドシェアの取組を行っておりまして、今、三浦市さんとともに、かなライドを展開して交通の利便性の向上を図っているという状況でございます。

最後に、今、県のほうで、最も力を入れている取組をご紹介したのですが、先ほど三浦半島はイタリア半島プロジェクト、こちらに記載の地元の料理家の長谷川りえさん発想のもとで、それを参考に県で取り組んでいます。今、そのセカンドステージとして、アルベルゴディフーズ、地域資源を活用した地域活性化の取組、こちらを展開しようと考えております。三浦半島ならではの地域資源、豊かな自然とか食、そして歴史、文化、こういった地域資源があるのですが、その地域資源と宿泊施設をつなげて、まち全体でおもてなしをしようという、その事業が地域まるごとホテル事業です。それを三浦半島で展開しておりまして、その第一号として、古民家を活用した三崎港エリアの取組が本格スタートしています。すでに利用客も入っているということで、順次拡大しようと考えております。今年度につきましては、お得な鉄道切符との連携企画や既存のイベント、地域のイベントとタイアップして利用者、宿泊者限定の特別企画を実施しようと考えております。そして、プロモーションを強化するために、県の観光情報ウェブサイト「観光かながわNOW」に特集ページを設けて、そういった取組のコンセプト、そしてホテル、観光施設が巡るような、そういった予約も一緒にできるような、そういった特設サイトを設けて、まるごとホテルと周辺の観光施設が相互に連携して、地域全体を活性化するような取組に努めております。

最後に、今後も市町、関係団体の皆さまと連携して三浦半島魅力最大化プロジェクトを推進して

いきたいと思っています。三浦半島の地域の活性化に取り組んでいきますので、よろしくお願いいたします。私からの説明は以上でございます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。それでは、本日のテーマ、広域的な課題の解決に向けた連携のあり方、三浦半島魅力最大化プロジェクト等の推進に関するご発言を各市長、町長様からいただきたいと存じます。

恐縮ですが、建制順で第一人、5分程度ずつのご発言ということでいただきたいと存じます。それではまず、横須賀市の上地市長様、よろしくお願いいたします。

【横須賀市長】

今日はお時間を作っていただきましてありがとうございます。お礼を申し上げたいと思います。横須賀市としては三浦半島全体の活性化につながる浦賀の事業について、ご説明をさせていただくとともに、お願い申し上げたいと思いますので、着席して説明させていただきます。

先ほどもご案内がございましたが、今、浦賀では駅前周辺の約15ヘクタールの土地の利活用に向けて事業者の公募を進めていまして、10月にはそのパートナーとなる事業者が決定をするところになっています。住友重機械工業さんが撤退してから20年間の停滞が続いていた浦賀の町にもう一度新たな息吹を吹き込み、実は第二の開国をしたいというふうに思っています。この横須賀から、それをコンセプトとした街づくりを進めて、横須賀のみならず三浦半島全体に元気をもたらしたいという思いで、この事業を進めていきたいと思っています。特に地元の皆さんは、街が新しく動き出す瞬間を心待ちにしておりまして、このプロジェクトをいち早く実現するために、ぜひ神奈川県さんのご協力をお願い申し上げたいと思います。

改めて、浦賀の取組に至った経緯について、お話をさせていただきたいと思います。ご案内のとおり、黒船ペリー来航の地とし、また、日本近代化の発祥の地となった浦賀が、歴史とロマンに満ちて、かつての造船の街として、多くの人々の心と暮らしを支えてきました。ただ、平成15年の浦賀ドッグの操業停止以降、街の活力は大きく失われました。私はこの状況をなんとしてでも打破したいと、もう一度浦賀を輝かせたいという思いで、土地所有者である住友重機械工業さんと何度も何度も対話を重ね、関係を築いてきました。これはかなり関係が冷え込んでまして、私が議会でこれまでの非礼を詫言いたいと言いましたら、翌日の朝にメールが届きまして、社長からぜひお会いしたいということで、すぐお伺いをして、今日に至ったという経緯があります。これは行政の、何かこう、勘違いというところもあるんですね。住友重機械工業さんとの関係は、実はかつて、住友重機械工業さんが撤退した後、様々な都市計画を作っているいろいろな絵を描いてしまったんですね。これは行政にありがちなだけけれども、人様の土地に絵を描くというのは果たしていいものなのか、と私が議員の時に申し上げていたのですが、住重さんからもお怒りを買って、どなたも会えないという状態が続いていた。議員の時から非難していたのですが、市長になった瞬間にお詫言をもう一回したら、翌朝メールが届いて、そこから付き合いが始まって、この8年間かなり、ずっとお話をさせていただいて、一部の土地をまずはいただくことになったという経緯があります。

そして、令和6年3月に住友重機械工業さんと横須賀市との間で駅前周辺地区の活性化に向けた、開発事業者を選定するための協定を締結させていただきました。そして昨年11月に市有地と民有地を一体的に開発するパートナー事業者の公募を開始。開発のコンセプトは、お話ししたように、第二の開国です。海、歴史、多様な交流が生まれるまち、の三つを柱とした事業提案を今まさに受け、審査を進めているところで、10月上旬には事業者が決定するところです。これまで横須賀になかったあらたなまちづくりをこの浦賀で進めて、地元の熱い期待に応えるため、また、横須賀、三浦半島全体の活性化に向け、一日でも早くプロジェクトを実現させたいと思っています。圧倒的なまちにしたいと思っています。そのためには、土地利用に係る規制の見直しや周辺道路の再整備のための調整など、ぜひ神奈川県のご協力をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

この浦賀の開発は、横須賀復活の最後のピースであると思っています。この完成なくして横須賀の未来はないというふうに思っている。それほどの思いでやっています。それと同時に三浦半島魅

力最大化プロジェクトの鍵にもなるのではないかと思いますので、ぜひ、三浦半島全体の観光集客やにぎわいの創出につながると確信しておりますので、横須賀の再生、三浦半島の未来のために引き続きご協力をお願い申し上げたいと思います。私からは以上です。よろしくお願いします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、鎌倉市の松尾市長様、よろしくお願いします

【鎌倉市長】

改めまして、おはようございます。鎌倉市長の松尾です。黒岩知事をはじめ、神奈川県ของ皆さん、本当に日頃から様々な面で、ご理解ご協力いただいておりますこと、この場をお借りしまして、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

着座して失礼させていただきます。私からは、あまりいい話ではない、オーバーツーリズムの対応ということになりますけれども、地域活性化していけば、いろいろな問題が起こるということで、こういう問題を解決して、より住んでいる人も、そして訪れる人も、楽しめる、そういう三浦半島を目指していくという中において、しっかり課題解決していければという思いでいるところです。ご案内のとおりですけれども、写真が小さいのですが、特に今、鎌倉高校前の踏切のところは、連日テレビ等でも取り上げられているような状況でございます。江ノ電さんと警備費を折半して、警備員を常時2名置いているということで、この間、今対応しているのですけれども、ここ数カ月間でフェーズが変わってきてしまったな、という思いがあります。というのも、あそこの近隣に、いわゆる白タク、もしくは白タクではなくても、大型ワンボックスの車が外国人を連れてくるのですけれども、その車がかなり大手を振って一時停車をするようになってきました。それを注意すると威嚇されるという状況になっていて、地域の住民の方とのトラブルというのが、非常に感情的になってきてしまっているということで、さらに踏み込んで対応しなければいけないというふうに考えていて、様々な新たな手を打とうという段階でございます。

今回は2つ、大きなテーマとして、お話させていただきます。1つが民泊の問題です。神奈川県ของ所管域で実施する民泊の1/3が鎌倉市に所在しているということになってきました。課題がそれにつれて非常に多くなってきているという状況です。主な問題とすると、騒音や光の問題、ゴミの問題。特に家主不在型の施設の場合には、ルールとして、きちんと課題があつたら連絡が取れるように、ということになっていて、直ちに管理者は何かあれば、駆けつけられるということが、できなければいけないのですけれども、この緊急時の対応もままならないというのが、現状となっています。もちろんすべてではないですけれども、そういう認識でございます。ご案内のとおり、神奈川県ของ管轄の部分というのがありますけれども、条例でこの区域を定めて、実施する期間を制限するということができるというのが、民泊新法の中に設定されています。ご案内のとおり、箱根町はそうした観点から制限されているという認識をしています。その他、他県の状況でも長野や和歌山、兵庫などで、それぞれ制限をしているというところも、皆さんもご承知のとおりだというふうに思います。そんな中で、鎌倉市から現状を鑑みた中では、次の二つをぜひお願いしたいというところです。建築協定等が締結されている地域での家主不在型の民泊施設の制限です。建築協定が締結されている、いないはあまり重要ではないのですけれども、先ほど申し上げましたように、家主不在型の民泊を制限していきたいというのが思いです。それから もう一つが、事業開始前の周知及び説明会の義務化です。今は知らない間に民泊ができていくという状況で、説明を求めても一切応じてもらえないというのが現状です。そんなことは義務化されていない、というのが事業者の言い分なわけなのですけれども、スタートした後にはやっぱりトラブルが起きるというのが現状です。住民のご意向を聞くだけでも、ある程度、運営の中できちんと理解していただける面もあるのではないかなというふうに思いますので、ここのところを義務化していただく必要があると思っています。

それから、もう1つの点は、大仏前のバスの問題です。1つは、大仏前の県道の部分で、写真のように、歩道に商品の陳列をしてしまうというお店がいくつかあります。神奈川県にも市からの申し出にご協力いただいて、一緒に指導していただいているというのは、感謝申し上げます。年に1回以上実施したいというふうに書いてあるのですが、1回以上実施したからといって、なくならないかもしれないので、ぜひ粘り強く一緒に指導に当たっていただければと思っています。

それから、大仏前の駐車場のところなのですけれども、大型の観光バスが乗り降りのために、停めてしまいます。通常のバスのバス停があるものですから、そこを勝手に使って乗り降りをするわけなのですが、後ろから来る車の渋滞の要因になっているという状況です。ここの横の県の駐車場の部分をうまく活用しながら、駐車スペースを設けるなどして渋滞の要因にならないようお互い知恵を出し合いながら、なんとか解消できるようにお願いしたいというところでございます。鎌倉市からは以上です。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、逗子の桐ヶ谷市長様よろしくをお願いいたします。

【逗子市長】

逗子市です。よろしくお願いいたします。着座で説明させていただきます。

逗子市からは、小坪地区における海業の推進ということでお話をさせていただきます。今日のお話は、小坪の海業の特徴、実施する取組、未来展望ということでお話をさせていただきます。小坪漁港は大変小さな漁港でありまして、水揚量は1989年には466tありましたが、一昨年には81.3tというふうに、8割減。2割減ではなく2割になったという、このぐらい衰退をしております。理由は様々ですけれども、一つは藻場の喪失等による漁獲量の減少というものも考えられます。組合員数も、かつて51名が今35人。高齢化もして、人数もそれなりに減っているということでもありますけれども、ただ一つ言える点は、高齢化をしておりますが、若い人も入ってきているというのが現状です。要はもう漁では飯を食えないのに、なんで漁師になるの、ということです。副業、例えば塾講師をやっている、漁をやりたいというような、副業があり、漁に対して取り組むと、こういう人たちもいながらなんとか維持しているというのが現状です。そして、取組に関しましては漁業体験、こういったものも積極的にやるようにしております。主に刺し網の体験やわかめ漁の体験。わかめというのは、捕ってロープに吊るすのですが、その時に一緒に茹でる。その色が変わるのに、子供たちはもう感嘆の声を上げて、やっぱり体験する、この現場を見るということは非常に大事だと思って、こういう取組をしております。

また、23年からの実証実験ですけれども、漁師タクシーをしております。これは一つは漁業者の所得の向上につながってほしいという願いと、あの周辺での消費の増進につながれば、また、市内の回遊性の向上という観点で、こういった漁師船に乗って、小坪港から渚マリーナに運ぶ、近場に行くのですが、意外と人気があります。というのは、喫水がこれだけ小さな船ですので、波の上そのまま、海上そのままというイメージ、それと漁師さんとの会話。これがなかなか好評なところもありまして、こういった取組をしております。

そして今、小坪漁港機能増進基本計画を策定中ということで、水産庁の海業の認定を受けまして、13が認定された中で、本当の漁港ではなく、観光を主体とした漁港の中では唯一小坪が選ばれて、今、取組をしております。それで逗子の地形になるのですが、こういったところを進めていく予定ですが、要はここが漁師小屋のある部分です。ここに船が上がりまして、小さな漁師小屋が建っておりますけれども、ここを、木造の漁師小屋を番屋風に建て替えができないかということで検討を進めているところです。この課題は、一つありまして、国有海浜地でありまして、市街化調整区域であるということになります。このためにここに施設を作ると、木造とはいえ施設を作るというのが大きな課題であり、これは県土木の皆さんにもご相談させていただきながら、県のご了解もいただいて、ここに番屋風の小屋が立ち並び、そして漁で取れたものを販売もすると、こういった風景が見えるようになれば、ここはまた一つの呼び込める大きなものにはならないかという考えです。

そして、今の小坪港から逗子海岸の田越川のところにあります渚マリーナ、ここまでを、海上輸送の航路として考えておりまして、県で推進しておりますかながわシーライド、これは大きくは湘南港を中心に各港をつないでおりますけれども、それをまたさらに小坪港と葉山港の間を小さく補完する形で、この漁師タクシー等で海上輸送ができれば、市内への流入も増えてくるであろうと、そういった考えで準備をしているところであります。これはまさに三浦半島魅力最大化プロジェクトの海・食の魅力を高めるということにも関連してくると考えておりまして、我々のほうで取組を進めていきたいと考えているところです。これも、県にお願いしようということになります。三浦半島

エリア内での周遊連携の促進、これにご協力いただきたいということ。また、海業に係るソフト事業及びハード事業、につきましても最大限のご支援を賜ればということでのお願いでございます。逗子市からは以上でございます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、三浦市の出口市長様、よろしくお願いいたします。

【三浦市長】

こんにちは。神奈川県の皆様には、黒岩知事はじめ、日頃から三浦市へのご協力をいただいておりますことをこの場をお借りして感謝申し上げます。着座にて失礼いたします。

三浦市からは、今回の三浦半島魅力最大化プロジェクト等の推進についてということで、移住を中心したところでご説明させていただきます。本市の移住政策とプロジェクトに位置づけられる県の事業である三浦半島移住コンシェルジュ事業との連携について、特にお話させていただきます。

人口減少が続く中で、三浦市においても、本市への移住希望者からの相談受付をはじめとして、神奈川県が主催する移住セミナーへの参加や、市が主催する現地開催型講座、三浦移住学の開催、移住冊子の配布といった形で、移住希望者に三浦市に住む魅力を伝える機会を設けて、移住促進に取り組んでおります。この移住冊子も非常に好評で、今年度、また新しくしていく予定でございます。

しかしながら、人口減少の抑制には及んでいない状況でございまして、先ほどお話ありましたとおり、コロナ禍において社会減社会増が持ち直す動きがありましたけれども、厳しい状態が続いているということでございます。今般改訂されました三浦半島魅力最大化プロジェクトで4「住む魅力を高める」の10「若者や働く世代から選ばれる半島ライフの提案」に想定される取組として、「移住・定住相談対応等の充実」が掲げられております。これに基づき、本年度から神奈川県においても、先ほどお話がありまして、三浦半島移住コンシェルジュを開始したということで伺っております。この事業につきましては、移住希望者の相談の申し込みを受け付けますと、コンシェルジュが相談者からヒアリングを行った上で、案内人に取り次ぎ、案内人はメールやオンライン、現地案内といった方法でまちの情報を案内し、移住につながる場合は、住まいや仕事についても可能な範囲でフォローするというものであり、すぐに移住が決まらなかった場合でも、地域コミュニティとの継続的なつながりや、そういったつながりを作るということを行いまして、長期的な地域との関わりを見据え、潜在的に移住する希望がある方を増やしていく内容であるというふうに理解しております。

本市では、移住相談についても、この事業と連携を強化していくことで相談者に対して、これまでより充実した情報提供が可能となると考えております。また、今後この事業の充実を図っていただくことによりまして、三浦市及び三浦半島への移住者の増加に資するものと期待しております。三浦の地元でも、住民の方が直接相談を受けるなど、活発な動きも見られますので、神奈川県としっかり協力させていただいて、三浦への移住をしっかりとご案内することで、促進を図っていきたく思いますので、引き続きご協力をよろしくお願い申し上げます。以上とさせていただきます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、葉山町の山梨町長様よろしくお願い致します。

【葉山町長】

葉山町長山梨でございます。いつも神奈川県の皆様、本当にきめ細やかなご配慮をいただきまして、心から感謝を申し上げたいと思います。では座って失礼します。

葉山町は、今回、三浦半島魅力最大化プロジェクトにおいて、県の皆さんのみならず、三浦半島全体で、皆さんで少し考えませんかというアイディアをお持ちいたしました。先ほどの松尾市長からもお話ありましたが、民泊がテーマになりますが、アルベルゴディフーズの話を参考に、泊まる、食べる、観光で歩くという分散型ホテルの取組、非常に面白い取組だと思います。そこで、民泊について考えるととてもいい機会だと思っているので、その裏腹の面について共に議論を交わしていきたいなと考えています。

先ほどの鎌倉市さんと同じように、葉山町もだいたい民泊の数が増えてきました。葉山町はほとんどが山なので、民泊が住宅街にだいたい点在をしているという状況で、この密度が実は結構高くて、こ

ちら次の資料、黄色い部分、上から二番目に葉山町がおります。人口密度千人当たりの件数で神奈川県では二番目に多いという結果があります。鎌倉市さんが四番目です。ただ、鎌倉保健福祉事務所管内では、鎌倉市さんが圧倒的に多いですけれども、そこに三浦市、横須賀市さんはホテルもたくさんあるので、民泊自体の密度は高くないと思うのですけれども、三浦半島にだいぶ多いというのが十分わかると思います。

ここに私たちの向き合う課題として鎌倉市の松尾さんの話がまさにありますが、葉山町も同様に、この一枚の写真をご覧ください。簡単に言うと、大学の卒業旅行で夜間に騒いでいたのですが、困ったことにフロントがないので、そこで注意ができないで、帰ってしまう。そして、また翌年の卒業シーズンに違うグループが来て、また騒ぐと。規制がすごくかけにくい、抑制がしづらい、現場で注意をしづらい、そんな状況があります。路上駐車問題もあります。多いのが、民泊の場所がわからなくて、隣の家インターホンを押してしまっただけということもありました。これは大事だ、裁判だという話にはならないのですけれども、コツコツと近隣では、なんとかならないのかな、というのが広まっているのが現状です。

ちなみに先週、今週と直近で、町に投書がありまして、大麻や盗撮という言葉が苦情で寄せられまして、葉山警察の方に相談を持ちかけている現状もあります。こういった状況を受けて、民泊そのものについて、町でも取り組めないかということで、今年の春にキックオフ会議を行いまして、5月に第1回の公式の会議を行いました。そこで鎌倉保健福祉事務所さんや葉山警察さん、鎌倉市さんの職員さんも来ていただき、一緒に考えましょうというふうに、今、取組を始めているところです。

鎌倉保健福祉事務所さんも、民泊新法が施行されてから、所管にはなりますけれども、本当に苦労されているのを肌で感じました。土日に関心が高まることから、呼び出され、現場に行かなきゃいけない、そんな苦労がすごくありますから、地域で私たちができることがあればというふうに強く思っています。見据えているのは、若干、上乗せ横出しの条例も含めて、町の方針も出していただくと、規制面では考えている現状があります。

ここでレスポンスブルターリズムという言葉の提案です。この言葉、日本語に訳すと責任ある観光という意味です。いろんな楽しみをしてください、食べてください、喜んで帰ってくださいという観光の中に、この三浦半島はこういう芯のある、そして住宅街のある地域なので、信念として、こういう観光でまちを知ってください、地域を楽しんでください、ただ、あなた方もしっかりと責任を果たしてくださいね、ということをお願いしていくということが大事なのではないかと思っています。参考に沖縄県の八重山諸島にある竹富島の事例を私勉強させてもらったのですが、竹富島は石垣島からフェリーで10分ぐらいのところのようですけれども、行く方には、フェリーを待つ場所、フェリーに乗っている間、竹富島に着いてからのステーション、ずっと竹富島はこういう島です、こういう地域なので皆さんここに気をつけてください、島民生活の邪魔をしないでください、という映像が流れ続けるらしいんですね。島に行くには時間がかかるので、その間にそういうプレゼンができるというのは、いいなと思うのですけれども、私どもは、車で来ることができる場所で、渋滞もすごく多くなったと最近感じています、なかなか竹富島のように伝えることが難しいところです。ですが、なんとかレスポンスブルターリズムをやっていけないかと考えています。岐阜県の白川郷でも、同じように注意喚起、非常に厳しい願いがあると聞いております。いろいろ書きましたけれども、今夏も久しぶりに横横道路上り線が渋滞するようになりましたし、昨日も三浦半島地域広域幹線道路整備促進期成同盟の席上で申し上げましたが、逗葉新道の出口から料金所を出る前から渋滞もするようになってきて、本当に肌で観光の回復を感じてはいるのですが、そういった方々に新しい観光のあり方をしっかり伝えていくことが必要なのではないかと、昔ながらの観光と言ってしまうと恐縮なのですが、スライドで青いところに囲いましたが、観光客がただ地域を消費する、地域を楽しんで、その結果、地域そのものをすり減らして帰っていくというのはよくないですし、彼らがその地域を体験してもらうことで、やがて地域民もウェルカムにもなりますし、彼らがそこに住むという意向に変わっていくのではないかと期待をしています。

三浦半島魅力最大化プロジェクトの推進に向けて、観光の魅力を高めつつ、三浦半島に住んでもらうという着地点を見出すために、レスポンスブルターリズムという言葉で、それで皆さんが何か

考えを持ち寄って、共にできることがあればなと今感じているところです。最後に葉山町の写真を参考にお持ちしました。一番左の写真は海岸沿いのホテルに泊まっているところですが、こういった空間で泊られますし、また、左から二番目の写真は、山にブランコをつけて遊び場を作っています。写真右から二番目はバス停に写真を撮りに来ている様子です。バス停の窓の向こうに富士山が見えるので、そこが一つポイントになっているのですけれども、一番右側も、街角の写真を撮る様子です。単純にイベントとか、何かアミューズメントの施設で楽しむという観光よりも、こういった泊まること、歩くこと、写真を撮ってここに行ったことを発信することが今の観光の大きなベースになっていると思うと、新しい観光のあり方がこの三浦半島からは提案できるのではないかなと思います。

観光客の皆さまと一緒に地域を大事にしていこうよという気持ちで、民泊を一つ具体例にあげましたが、レスポンスブルーツリズムを県や三浦半島の皆さまと共に考えていけたらなということが葉山町からの三浦半島魅力最大化プロジェクトの鍵になると思って、今回ご提案させていただきました。葉山町からは以上です。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。それではここからは、各市長、町長様からいただきましたご発言を踏まえ、意見交換に移らせていただきます。進め方ですが、原則としてご発言があった順にご議論いただければと存じます。

まず、横須賀市長からご発言のありました浦賀駅周辺地区のあらたなまちづくりについて、ご議論させていただきたいと思います。議論に先立ちまして、県の関係局からコメントをさせていただきます。県土整備局長からコメントをさせていただきます。

【県土整備局長】

県土整備局長の池田でございます。いつも皆様にはお世話になっておりまして、改めまして、この場をお借りしてお礼申し上げます。それでは、市長の方からお話のありました、浦賀駅地区周辺のあらたなまちづくりについてですけれども、本当に長年利用がされずに停滞していたところが動き出されたということで、本当に進めていきたいなと思っております。この浦賀駅周辺のまちづくりが、進むことで、浦賀に住む方々はもちろんですけれども、市内外の様々な方々がお集まりになって楽しめると、そういったまさに第二の開国というテーマのもとに、定住や新たな雇用の場が創出されて、活性化していくということで、三浦半島の地域の魅力も高まるものと私も考えております。そうした中、市長からもお話もありましたとおり、事業者の選定が公募されて、パートナー事業者を選ばれているという手続きの中で選考委員会のほうも進められていると承知しています。その選考委員会には、県土整備局の職員も入らせていただいて、パートナー事業者の選定、基準の検討とか、提案書に対する評価というのを一緒にやらせていただいております。今後、選定されたパートナー事業者のご提案書を踏まえまして、臨港地区の都市計画とか、県道の拡幅といったことが、出てくると思いますけれども、そうしたことには、いろいろ、検討と協力をさせていただいて一緒に盛り上げていけたらと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。それでは上地市長から何かございますでしょうか。

【横須賀市長】

ありがとうございます。いつも私は言っているのですが、スピード感なのです。このままいくと8年後になっちゃう。当然、その時には、私はやっていないだろうと。そう考えると出来上がるまでに8年かかる。実際すべての整備計画もそうなのだけれども、このスピード感のなさにいつも苛立っています。横須賀市だけではかなりのスピードでやっているの、ぜひその辺はご協力をいただいて、8年後の完成と言いますと、今浦賀に住んでいる方たちは夢を見ていて、果たしてそれが見えるのか、という方もいっぱいいるのですよ。夢だけ提供して、8年後にできるというのは、これは、絵に描いた餅としか言いようがないのです。行政機関はいつもそのような言い方をするのだけれども、できれば8年を4年ぐらいにしたいという目途を立てて、頑張っていきたいと思っていますので、ぜひその辺ご協力をお願いします。せっかくこの機運が盛り上がっている中で、夢を見ずに亡くなる

方もいっちゃるとするならば、やっぱりこれは、私の使命ではないというふうに思ってしまいますので、ぜひその辺はご協力いただきたいと思います。

もう一つ、失われたアイデンティティと横須賀は思っていて、基地のまちということであまりイメージが良くないのですが、ようやく小栗上野介の逆賊の幕臣、あのネーミングはいかがなものかと思うのだけれども、あの明治維新の時代に大変な功績を残していながら、逆賊とされた小栗上野介が横須賀造船所を作り、そこがまさに日本の近代化の幕開けで、ここがアイデンティティの基礎だろうと思っています。横須賀は、ほとんどアイデンティティがないので、アイデンティティを作りたいと思っていたので、第二の開国の名のもとに、ここを復活させながら新しい流れを作りたい。つまり、圧倒的な、日本とは思えないような仕組みを作っていきたいし、ソフトにおいても、それをもう一度思い直してもらいたいという思いがあるので、ぜひその辺もお含みおきいただいて、三浦半島の出発はここだ、という意味で、第二の開国と銘打っていることをご理解いただければと思いますので、ぜひご協力のほどお願い申し上げたいと思います。以上です。

【県土整備局長】

ぜひ、いろいろな協力をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。次に鎌倉市長、それから葉山町長からご発言いただきました、民泊の関係について、両方で視点は多少異なる部分はあるかと思いますが、重複したところで議論もあると思いますので、合わせてご議論させていただければと存じます。

それでは、まず初めに健康医療局長よりコメントをさせていただきます。

【健康医療局長】

健康医療局長の足立原でございます。日頃から大変お世話になっております。それでは、今、松尾市長、山梨町長からご発言いただきました民泊の話で、私ども、いわゆる宿泊事業者の許認可を健康医療局のほうで管轄しております。まず私の方からコメントさせていただきます。この三浦半島の魅力を高める中で、宿泊の受け皿を作ることは非常に重要なのですが、ただ、これはもうあの市長町長おっしゃったように、健全な運営をされて、地域と調和して初めて、だと思っています。そうした中で、まず松尾市長おっしゃった条例の規制、皆さんご案内かもしれませんけれども、おっしゃったとおり条例では、いわゆる民泊について、生活に非常に悪影響を及ぼすという場合の合理的な理由がある場合には、その地域と時期を絞って営業制限できるという法律になっております。

実は鎌倉市長さんからあったお話は事務的にはすでにやり取りをさせていただいております、あとはどう合理的な理由を作るかということだと私は思っております。ちなみに、箱根町さんが、実はもうすでに制限されているのですけれども、条例上はあまり合理的な理由が全然書かれていないのですけれども、例えば箱根町だと、3月1日から6月1日、それから8月1日から9月1日、それから10月1日から12月1日ではハイシーズンの時期。花見だったり、夏だったり、紅葉だったりというところなのです。そのあたりをどう例えば、どう合理的な理由を付して、まあこれはそうだよ、と各県民、あるいは利用される事業者の方も納得されるような理由を、どう付して改正するか、だと思っていますので、ここは引き続き、逆にお知恵を借りながらやらせていただきたいと思いますと思っています。

それから、松尾市長がおっしゃった、事前に民泊を作る時に、知らぬ間にできちゃってたと、全然周囲に説明がなかった、という話でございます。今、県としても、一応、県の中の指導要領の中で、指導指針の中で、一応やる時にはまず周囲に周知してくださいね、そして、どう周知したかというのを報告して届け出させていただくことにはなっているのですけれども、やはり少し甘いのかなと思っています。これは市町さんによって、どこまで義務化、強化するかどうするかという多少温度差がありますので、ここについては、ぜひ引き続き各市町さんとも、ご意見聞きながら、どういう形で事前の営業開始しますよという説明をしっかりとっていただけるようになるのか、県としても検討してまいりたいと考えております。

それから、葉山町の山梨町長さんがおっしゃった、レスポンスブルツーリズムの考えに沿った民泊の営業、本当にそのとおりだと思っています。おっしゃってたとおり、後ろに鎌倉保健福祉事

務所長がおりますが、すでに鎌倉保健福祉事務所は、この会議体に参加をさせていただいていて、我々は届け出なり許認可をする側ですので、その申し出があった時に、この地域だったらこういうことに気をつけてくださいね、というのをしっかり周知できるか、それから、実は事業者もですけども、マナーなど利用するお客さんがしっかりするかどうかを、先ほどの竹富島の話ではないですけども、どれだけツールを使って、周知徹底させて、かつ監視し、性善説ではなくて、性悪説で、なにかあった時にはすぐ駆けつけられるようにするか、このあたりのツールをどう提供できるかということもあると思いますので、引き続き、県としても考えて参りたいと考えております。ひとまず以上でございます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。文化スポーツ観光局長よりコメントさせていただきます。

【文化スポーツ観光局長】

文化スポーツ観光局長の今井でございます。大変お世話になっております。鎌倉市のオーバーツーリズムの話もございました。葉山町さんのほうからも、民泊の検討会議を立ち上げていただいていることで大変感謝を申し上げているところでございます。観光の面から言いますと、これまで観光というのは、名所を見て、先ほど消費という話もありましたけれども、買い物して、宿泊はホテルとか旅館とかそうしたことが、今は、その地域の暮らしを体験するとか、宿泊も民泊とか、観光も楽しみ方が多様化していると思っております。

三浦半島は地形的にも、大型ホテル立地がなかなか難しい中で、こういった民泊の活用は非常に有効な手段ではあると思っております。バランス、地域の生活圏に観光客の方が入ってくるといことは、今まであまりなかったことで、そういった中では、事業者、宿泊者がそれぞれ、責任を持った行動をしていただく、どうやって共存していくのか、そのバランスが非常に重要だと思います。それが持続可能な観光であって、先ほどお話がありました、レスポンシブルツーリズムなど、そういったところをきちんと推進していくことが重要になってくるのだらうと考えております。今、お話を聞いていまして、葉山町さんの検討会議は、相当先進的な取組というふうに感じたところでございます。県のほうでも、市町村、また観光事業者を交えた協議会がありますので、できましたら、今後、そうした取組や状況について、機会を捉えて、ご協力、ご共有をいただくことで、他のところの取組の参考になるかと考えております。

方策として、条例による規制がいいのか、もしくはガイドラインやルールでやるのか、それぞれ地域の特性や状況も異なると思いますので、庁内も、健康医療局とか、複数の局にまたがる部分もありますので、今後一緒に考えていけたらと思いますので、何卒よろしく願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。まず鎌倉市長さんから何かご発言があればよろしく願いします。

【鎌倉市長】

ありがとうございます。地域との共存ということは、大事にさせていただいているというお話をいただけて、安心できる部分もありました。ありがとうございます。

ただ一方で、繰り返しになってしまいますけれども、現状はご承知のとおりです。周知をするという場合には、チラシをポストに一枚入れておいてそれで終わり、ということでも決してこれで否定されないという状況になっています。そもそもこの民泊を営業するという申請も、実はフェイストウフェイスではなくて、インターネットからの申し込みで、それでオッケーという形になっているという状況で、今どんどんと民泊が増えている。地域の方からは、いくら声を上げてでも何ら対応されない、というのが現状ですから、どこまで今おっしゃっていただいたとおりにするかというところは、結構難しいと言いますか、課題だというふうに捉えていますので、全部県一律でということよりも、やはり先ほどの地域それぞれの特性があるというふうにおっしゃっていたので、鎌倉は鎌倉なりの、その地域の、うるさいと言われれば、そう言われてしまうかもしれませんが、きめ細かく対応していくということ、様々な街のルールでも求めている部分がありますので、一律でのルールができないからということよりも、鎌倉としてのルールということをちょっと協議させていただいてより厳しく、我々とするとしっかりと向き合っていけるルールを作ってまいりたいというふ

うに思いますので、合理的な理由というところもありますけれども、しっかりと知恵を出していければと思いますので、よろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

山梨町長さん、よろしくお願いします。

【葉山町長】

ありがとうございます。私は直近の話をさせていただいたのですけれども、少し先を見て、考えているところがあります。

三浦半島はこれから賑わうでしょうし、来訪者数も増えると思うのですけれども、葉山町は、今、人口減少によってできた空き家が投資の対象として見られていて、投資して買った人が、短期間で利回りを得るために、住んでもらうのではなく、民泊にしてしまうのです。そういったかたちで気軽に民泊事業を始めているところで、今すごく数が増えて始めています。それで、うまくいかないから、そのまま売却すればいいという考えを直接聞いているので、そういう意味でも、中長期的な視点として、観光の面を支える民泊のあり方を考えなくてははいけません。これで賑わって、民泊が活性化していくことはいいことなのではけれども、裏面が大きくなっていくので、早いうちに手を打ちたいなと思っているのが現状です。おそらく、民泊新法にだけでは県さんとしても、限界があるのではないかと、私たちも感じているので、地域自治体の時代ですから、地域でできることを私たちが先んじてやってみようと思っています。

鎌倉保健福祉事務所さんにも、ご苦労いただいて来ていただいたのですけれども、ぜひ後ろにいていただければありがたいなと思っています。鎌倉市さんにとっても、直接現状を抱えていて問題が大きいと思うので、直接、鎌倉市さんがやるとすぐ反発も出るとは思いますが、葉山町は、まだそんなに数が多いわけではないことから、今のうちに事業者も集めて、直接事業者と一緒に、どういう民泊が互いにできるかというのをやってみようと思っています。まずはガイドラインを作ってみて、町独自のスタンスをロールモデルにして、皆さんも使ってもらえるようにしていければいいなと思っています。ぜひ一緒にやらせてください。年度内には形を出したいと思っていますので、それがダメだと言われれば、叩かれながらどんどん改善をしてきますから、ぜひ一緒によろしくお願いいたします。ありがとうございます。

【健康医療局長】

健康医療局長でございます。ご意見ありがとうございます。

おっしゃるとおり、民泊だけではないのですけれども、地域の事情に即して、この地域はこういうふうにやってくださいね、あるいは先進的にこういうふうにやってみましょう、というのを県も一緒になって考えさせていただきたいと思ったり、そのあたり、柔軟にぜひやらせていただきたいと思っています。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。次に、鎌倉市長さんからご発言のありました、県道 32 号の鎌倉大仏周辺における交通状況についてご議論いただきたいと思います。まず、県土整備局長からコメントをさせていただきます。

【県土整備局長】

県土整備局長でございます。鎌倉市さんから、大仏とか長谷周辺の県道についてお話がございました。最初に、行政指導の件でございますけれども、沿道の商店が歩道上に商品を陳列しているということに対して、行政指導をさせていただいているところでございますけれども、昨年度も市と合同でパトロールをさせていただき、2 回ほど実施をしたところでございます。ここのところ、一度そういう形で指導すると一旦は商品の中には入れてくれるのですけれども、またすぐ、見ていないところで出してしまうということで、本当に粘り強く指導しなければならないというふうな考えております。今後も引き続き市と合同でパトロールを実施するほか、県土木事務所県単独でもパトロールを実施するとともに、不法占用している事業者に対しては、粘り強く指導をしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、この地域の歩行者の乱横断についてもご紹介がありましたけれども、これまでも横断防止

柵を設置するなど、乱横断対策に取り組んできたところでございます。今、設置していない部分については、店舗が立ち並んで、車の出入口があったり、地下に埋設物があるといったところで、単純にはいかないところもありますけれども、地元との合意形成が得られれば、その辺新しい横断防止柵をそこにも設置することは可能と思われますので、鎌倉市さんのほうでも、地元調整などにご協力をいただけたらというふうに思っております。

それから、大仏前の駐車場の交通渋滞、観光バスが停めるというところの観光渋滞についてですけれども、こちらについてはその対策を協議するために、鎌倉市さんのほうで、県と市と道路公社が一堂に会するような会議を設置していただきました。今年の7月には第1回が開かれ、現状の把握や課題の共有をさせていただいたところで、この9月4日にも第2回がまた開かれるということで、こうした会議を通じて、どのような対策が可能か、鎌倉さんと一緒に検討して対応してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。鎌倉市長さん、いかがでしょうか。

【鎌倉市長】

ありがとうございました。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

それでは続きまして、逗子市長からご発言がありました、小坪地区における海業の推進についてご議論いただきたいと存じます。まず、文化スポーツ観光局長よりコメントをお願いします。

【文化スポーツ観光局長】

文化スポーツ観光局長でございます。県ではこれまで、横浜、鎌倉、箱根に次ぐ国際観光地の創出ということで、城ヶ島・三崎、大山、大磯、この3地域を新たな観光の核づくり地域として認定して取組をしてきたところでございます。

昨年度から、これまでの核づくりを拡大して、かながわ観光連携エリアといたしまして、この三浦半島地域においては、これまで、城ヶ島・三崎の三浦市さんに加えまして、逗子市さん、横須賀市さん、葉山町さんを加えた三浦半島エリアというのを立ち上げていただいたところでございます。今年度から、このエリア内の周遊促進を図る取組を支援する補助制度というのを開始したところでございます。また県の観光協会、かながわDMOと協力いたしまして、連携エリアのサポートであるとか、プロモーションの支援などを行っております。やはりこの三浦半島エリアは、お話がありましたけれども、本当に、海や山といった自然やその恵みであるとか、食とか歴史、文化、大変素晴らしい資源があるところと認識しております。

逗子市さんのほうで、こういった漁業者の新たなチャレンジ、こういった取組というのは、このエリアを象徴する海を活用した周遊促進につながるとお思いますので、この連携エリアの支援制度、こういったものも、ぜひ活用していただいて、進めていただければと思います。引き続きよろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。続きまして、環境農政局長からコメントさせていただきます。

【環境農政局長】

環境農政局長の尾裕でございます。日頃から県の環境行政の推進に、皆様方には大変ご協力、ご支援をいただいておりますこと、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

私からは、逗子さんの、小坪地区における海業の推進ということで、海業の観点でコメントさせていただきます。小坪漁港は、ここ30年で8割の水揚げが減っているというようなお話もございました。そうした中で、小坪漁港さんは、非常に熱心に取り組んでいただいております。水産庁の海業振興モデル地区にも選定されていると思います。本当にありがとうございます。県として、地域の活性化を通じて、漁業者の所得向上を図っていくということで海業を推進しているところでございます。

令和6年度からは、海業ビジネスモデルの創出を目指して地域資源の掘り起こし、三浦半島は様々な地域資源があるというお話を、先ほどから各市町長さんからいただいておりますけれども、地域

資源の掘り起こしや、その魅力を活かした漁業者と企業とのマッチングを行っております。逗子市さんも、昨年度の海業モデルにも手を上げていただきまして、海業推進を一緒にやったところがございます。今年は、9月に漁業者さんや漁業組合の方、市町の方、企業さんなどを集めて、神奈川海業スタートアップセミナーと、マッチング交流会というのをやることとしております。

今後、こうした事業を続けていきますが、こういうソフト事業に加えまして、ハード事業につきましても、国の補助金を活用して取組を支援させていただいているところでございます。番屋風の漁師小屋、というお話もございましたけれども、県としても、国に予算獲得に向けてしっかり働きかけをして、要望しているところでございます。今後とも、皆さんと連携して海業の支援に努めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。逗子市長さん、いかがでしょうか。

【逗子市長】

しっかりと、協力体制をお考えいただいているということに大変感謝申し上げます。漁獲高が減った、獲れないと言って、それを嘆いても解決になりませんので、そういう状況を甘んじて受けた後で、どういう風にして発展に結びつけられるのか、これからまた次の挑戦をしていきたいと考えているところでありますので、引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。それでは、続きまして、三浦市長さんからご発言のありました、三浦半島移住コンシェルジュとの連携についてご議論いただきたいと思います。

議論に先立ちまして、政策局長よりコメントさせていただきます。

【政策局長】

政策局長の中谷からお答えさせていただきます。先ほど出口市長から、首都圏での移住施策について連携を図っていったほうがより一層移住者の増加といったことが期待できるのではないかと、というお話いただいて、まさに本県もそのとおりだというふうに考えております。

県では、移住を検討している方に向けて、相談対応、そして現地案内を行い、移住コンシェルジュ、こちらを令和6年度から県西地域で取り組んでおりました。昨年度は15世帯、33名の移住の実績を実現することができたということで、非常に大きな成果を、初年度から上げることができたのではないかと、いうふうに思っています。そうした状況がありましたので、ぜひ三浦半島でも、ということで、今年度から三浦半島にも移住コンシェルジュを置かせていただくということになりました。先ほどご紹介いただいたように、移住コンシェルジュのもとに、地域ごとにその案内人、さらに詳しい者を配置しまして、市町ごとに詳細な案内とともに現地にて伴走支援するというような、そういった取組を行っております。7月の末で12件ほどの相談を受けて、現地案内も7件行っているという状況と聞いています。今後もさらに力を入れて、その場で移住を決めなくても、そのフォローアップもして、丁寧に対応していきたいと思っております。

また、東京都内で、ちょっと田舎かながわライフ支援センターの相談員、そして、移住コンシェルジュ、市町の移住相談者の方と連携し、さらに有機的に強化していきたいと思っております。三浦市さんにおかれては、三浦移住学と称して、現地開催型の移住セミナー、私も承知しております。先ほどご紹介いただいた可愛いイラストの移住の冊子、これも好評だということを承知しておりますので、そうした取組を熟知した担当が紹介して、しっかりと連携して、三浦半島への更なる移住につなげていきたいと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願いします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。三浦市長さんいかがでしょうか。

【三浦市長】

非常に力強いお言葉をいただきました。県西地区でも素晴らしい実績が出ているということで、今後、三浦半島での展開は非常に期待できるなというふうに、今感じました。

私も、実は三浦出身なのですけれども、去年の3月に三浦に戻ってきた時に、この三浦の移住冊子をよく読みました。三浦は、今、こういう新しい流れがあるのだな、ということを非常に伝わりやす

く冊子でまとめておりますので、しっかり新しいものを作って、訴えていきたいというふうに考えています。

また、これまでの県のご支援のおかげもあって、三崎地区はじめ、移住者が積極的に新しい移住者を呼び込むという流れも起こっていますので、局長がおっしゃられたように、県と市の連携を強化して、有機的につながっていくことで、三浦市、もしくは三浦半島への移住というのを促進していきたい。その前提として、三浦市の子育て環境ですとか、住環境にもしっかり取り組むことで、総合的な住む場所としての魅力を作っていきたいと思っていますので、これからもよろしくお願い申し上げます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。

【政策局長】

先ほどの移住コンシェルジュ以外にも、本県では、市町村へのアドバイザー派遣の事業を行っています。これも非常に各市町村からご好評いただいて、移住の相談が多いのは、広報面とか空き家の活用、そういったところに支援を求める声が届いていたので、さらなる専門家を派遣できるような形で強化していますし、実際に移住した人に、アンケートを取って、どうことが良くて移住してきたのかという、データをしっかりストックして、それを、市町村にフィードバックしていきたいとも考えていますので、今後とも、是非、そういったことも活用いただいて、協力していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

5 市町からの話題・課題等

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

続きまして、議題の5番でございます。各市町さんからの話題、課題ということでお願いしたいと思います。前段と同じく建制順で、県へのご要望をいただいた後、知事からコメントをいただくということでお願いしたいと思います。大変恐縮ではございますが、ご発言は5分程度でお願いしたいと思います。それでは、横須賀市の上地市長さんからお願いいたします。

【横須賀市長】

はじめに、海業という言葉がようやく認知されたということ、大変嬉しく思います。これは、昭和55年、56年あたりだったと思いますが、三浦市の久野隆作さんという首長と、私が参画して一緒に作った言葉なのです。それは単なる水産業ではなくて、海に起因するあらゆる経済価値を生み出す生業をすべて海業というふうに提起した。これが昭和56年の話で、やっとそれが認知されて、一緒に参画してきた自分としては大変嬉しく思います。皆さんにもお使いいただいてありがとうございます。この概念をぜひこれからもお願いしたいと思います。

それから、ミューロ圏構想、ヨーロピアンみたいな名前なのですが、これはぜひ進めていきたいと私は思っています、実は特に防災関係で、能登半島地震をきっかけに4市1町で連携して、防災に取り組もうじゃないかと、そうでなければ、とてもじゃないけど、この三浦半島を守ることができない、という呼びかけをさせていただいて、2024年に首長連合会議を発足させて、今年の5月にNTT東日本との防災協定の締結と連携を進めてきました。今後は、三浦半島、市町という垣根のない、県から見れば三浦半島魅力最大化プロジェクトと同じように、一つの一体化した文化圏、経済圏としての発展をしていきたいと、これをミューロ圏と勝手に決めまして、ミューロ圏構想を4市1町で進めてきました。まずは、それを進めるためにはいろいろな考え方があるのですが、まず公共施設を共同利用しようではないか、という話を進めています。各自治体を持つ公共施設の老朽化が進む中で、将来的には広域での利活用を進めていこうではないかと考え、ごみ処理施設にしても、給食センターにしても本市にありますので、ぜひ、これは4市1町の中心として、何かお手伝いをするのができればと考えています。

そして、防災広域連携の強化なのですが、相互支援の強化確立、そして最先端技術を活用した防災DXの推進、これは今、NTT東日本と4市1町で進めているところです。そして、実はミューロという地域通貨を発行したいと思っています。これは以前から考えていたことなのですが、これは単な

る経済的な価値ということではなくて、ボランティア活動等のインセンティブポイントをつけたり、域内での施設利用などの様々な用途に活用いただくという、ハードというよりソフトに近い、三浦半島を一つの文化圏として考えて、そういう仕組みを作り上げたいということで合意をしています。まだまだいろんなことができると思うのですが、政令市のなんとか、という意味ではないのですが、緩やかな連帯で三浦半島を一つにしたいという実は考えているのです。これはぜひ、広域という意味では広い見地からご支援とご協力をいただきながら、できれば横浜、川崎に対抗する三浦半島文化圏を作りたいので、これこそが目指すミュージック圏だよな、ということなので、ぜひお力をいただきたいというふうに思いますので、よろしくお願い申し上げます。

もう一点なのですが、実は横須賀市の大矢部という地域に弾薬庫跡地がありまして、戦中に軍に接收された土地だったのですね。ようやく管財から一年前に返ってきたのですが、実は三浦一族発祥の地とされているのです。罰当たりな海軍が、勝手に接收して、やっと戻ってきた。これを復活させることが、三浦半島の復活だと思っていまして、ここをきちんとしてもう一度祀り上げたいと思っています。奥には洞穴がありまして、そこに多分、三浦一族の遺骨があって、学芸員が今調べている最中なのですが、そこを自然公園として復活をさせて、おそらく三浦一族のルーツだろうということを、もう一度、先ほどの開国の小栗上野介とともに三浦半島はここから始まったのだ、という意味で、しっかりと整備をしていきます。ここはまもなく開発が始まり、二年後には自然公園として出来上がるので、ぜひこの辺もご協力をいただいて、三浦半島のアイデンティティの一つとして、ご発表させていただきたいというふうに思いますので、ぜひよろしくお願い申し上げます。

とりわけミュージック圏構想には、お力添えをいただきますようお願い申し上げます。以上です。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、鎌倉市の松尾市長、よろしくお願い致します。

【鎌倉市長】

私からは、先般の津波警報を踏まえた防災のあり方についてお話をさせていただきます。津波警報が出まして、JRの鎌倉駅が、駅長を含めてすべての方が避難をするということで、駅が閉鎖をされ、観光客の方を中心に、市役所ないしは近隣の小中学校に避難をされたというところでした。全体で、5,660名の方が避難をされて、市役所の中でも議会のご協力もいただきながら、あらゆる会議室もしくは廊下とかにも、相談をしながら、受け入れをしたというところでした。もともと、インバウンド、外国人観光客の方に対して、どういうふうに情報提供していくかというのは、課題として捉えておりました。

そういう中において、市としても、様々な取組をしてきたところですが、一つは、観光庁のほうで、セーフティーチップスというアプリがありまして、外国人観光客の方に、市としても、観光をパンフレットの中で紹介をさせていただきながら、使っていただくというのは有効な手段だろうと思って、取組の一つとしていました。しかしながら、今回実際に、津波警報があり、どういうふうにこれが有効だったかというところを検証すると、外国人観光客の方は津波警報みたいな情報は得られるのですが、そこから先、交通がどうなっているか、避難所がどうなっているか、一体自分はどのような行動をしたらいいのか、こういうところはなかなか、きめ細かな情報は、ここからは得られないというところがありました。もちろん、一足飛びにそれができるというところまで行くのは難しいかもしれませんが、せつかくあるこのセーフティーチップスという仕組みでありますので、こういう地域の情報をこの中に盛り込めるように、ぜひ一緒に、観光庁のほうにも働きかけをして、より有効な手段として、周知していければと思います。また、外国人観光客の方も知らない方がまだまだいらっしゃいますので、ぜひ一緒に、この仕組みを周知できればと思っていると、そういう提案です。

それからもう一つ、付属の話になりますけれども、鎌倉市役所にいらっしゃる方を中心に、結局、帰宅困難者になったわけなのですが、実際に湘南モノレールが動いているという状況でありましたので、一番近い湘南深沢駅まで、市の公用車を使って、ピストン輸送で約1,500人の方を駅まで送り届けるということを行いました。ただ、この湘南深沢駅が、バリアフリー化されていないということで、多くの方、外国人観光客が大きなスーツケースを持ったり、ベビーカーを引いているという方

が、この階段を上るといのは、大変な状況になってしまったというようなことがあります。湘南モノレールさんからすると、この湘南深沢駅をバリアフリー化するといのは、以前から取組はされていて、一旦コロナ禍ということもあって止まっていたのですが、改めてバリアフリー化の工事をまちづくりと合わせて行っていくという状況になっています。ご案内とおり、この深沢のまちづくり、村岡新駅を含むところについては、神奈川県さんの強力なご協力をいただきながら進めているところでもありますけれども、この湘南深沢駅のバリアフリー化については、鉄道駅総合改善事業という、こうしたスキームを使って、ぜひ神奈川県さんにも、予算面も含めてご協力いただきながら実現に向けて進めていきたいと考えております。ぜひとも格段ご配慮いただきたいというお願いになります。私からは以上です。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。続きまして、逗子市の桐ヶ谷市長さん、お願いいたします。

【逗子市長】

桐ヶ谷でございます。改めて、よろしくお願いいたします。私からは、特別支援教育推進における非常勤講師の派遣についてというお願いであります。

非常勤講師は県からも財政的な支援をいただいているところですが、さらに、というところのお願いになります。現状は、通常級、特別支援学級における発達障害のある子どもへの対応と、これは大変増加もしておりまして、対応に苦慮しているところでもあります。さまざまな課題が発生した場合には、この初動が大変大事であり、そこが少し遅れてしまうことによる、様々な弊害も発生してくると思われれます。逗子市における特別な支援が必要な児童数というのは、令和2年度から令和6年度では約5割増加しました。そして不登校の数も、同様に5割強増加しているのが現状であります。そうしますと、今これに対応するために、市内小中学校全校に教育相談コーディネーター職員を配置しております。その職員が様々な問題の調整に当たるということになるのですが、このコーディネーター職員がその業務にあたるためには、県から非常勤講師の財政的支援をいただいております。コーディネーター職員の担当する授業、それを代替して実施しているところになります。今現在は、小学校におきましては週10時間、中学校は週7時間程度ということになっておりますけれども、実質対応しているコマ数を考えますと、小学校においては1コマ強、中学校で1コマ弱ということで、大変厳しい状況でことに当たっているというのが現状であります。課題としましては、多岐にわたる課題が増加、複雑化しているのが現状でありまして、新たなコーディネーター先も増えている。そうした中で、教育相談コーディネーター職員の対応が追いつかない状況になっているというのが現状です。

そこで県から財政的支援をいただいております、非常勤講師、この配置時間が十分ではないということから、不足している場合は、教育相談コーディネーター職員が授業を担当せざるを得ないという状況になっておりまして、それがまた後手後手に回っていくという現状であります。要望は、いただいております非常勤講師の時間につきましても、先ほど申しました小学校週10時間、中学校週7時間程度となっておりますことを、1週間当たり29時間以上に財政的な支援をお願いしたいというのが要望であります。これによりまして、少しでも現場の課題が速やかに解決に向かうように対応していきたいと考えているところでありますので、よろしくお願い申し上げます。以上であります。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。続きまして、三浦市の出口市長、お願いいたします。

【三浦市長】

三浦市からは、学校給食の充実強化、学校給食費無償化について少しお話をさせていただきます。学校給食は、心身の成長発達期にある児童生徒に栄養のバランスの取れた食事を提供することで、児童生徒の健康の増進を図って、日常生活における望ましい食習慣を身につけることが一つの大きな目的となっております。教師と児童生徒が食事を共にすることで、相互に触れ合いの場ともなっておりまして、これが好ましい人間関係の育成にもつながっているということ、非常に大切な教育の一環だと考えております。

三浦市におきまして、昭和 54 年に、三崎の学校給食共同調理場が作られまして、翌年昭和 55 年には、南下浦学校給食共同調理場が開設しました。小中完全給食を県内でも当時いち早く実施しております。肥沃な農地を有する地域特性から、三浦市では地産地消の考え方が広まる前から、積極的に地場産の野菜を活用してきました。そのような状況から、特段の意識もせずに、食育に昔から取り組んできたとも言えまして、近年では積極的なメニュー開発を行っております。令和 6 年度では、年間 183 回の給食のうち、三浦産の食材を使用した給食を 75 回提供しております。主な地産地消の給食として、三浦夏野菜のカレーですとか、カジキと大根の煮物、その他大手食品メーカーとコラボしたキャベツのハンバーグ等がございます。地産地消メニューは児童生徒からも好評をいただいております。

本年度は、地域企業や商工会議所の協力のもと、マグロの血合い部分である茜身を使用したメニューを新たに提供する予定でございます。城ヶ島にございます県水産技術センターと聖マリアナ医科大学等との共同研究により従来食べられてこなかった茜身には、生活習慣病などの要因となる活性酸素を除去する能力が高い抗酸化成分セレノネイン等が多く含まれておりまして、茜身を食べることによって未病改善への効果が期待されていることも明らかとなっております。皆さんにはぜひ機会があれば、ご賞味いただきたいと思いますと考えております。

昨今の物価上昇や教育費負担が子育て世帯の家計を圧迫しているといった現状に鑑みまして、三浦市としても、学校給食費の無償化に取り組んでいくべきと考えております。神奈川県内におきましては、給食費の無償化を実施している自治体は、南足柄市、厚木市、中井町、大磯町、箱根町、清川村でございます。ご存知のとおり、自民党、公明党、日本維新の会の三党により結ばれた合意文書の中では、給食費無償化は小学校を念頭に、地方の実情を踏まえて、26 年度、令和 8 年度中に実現する、中学校への拡大もできるだけ速やかに実現する、とございますが、現時点では具体的な動きはない状況でございます。令和 8 年度当初から無償化するには時間的余裕もなくなっているという状況です。

冒頭で申し上げましたが、給食は、児童生徒の成長や食育の観点から大切なものであります。現状のように、給食費の保護者負担に地域で格差が生まれるのは望ましくなく、自治体の財政状況により地域間格差が生じないように、国の制度として、学校給食の無償化が実現することが望ましいと考えております。国は無償化に取り組むと言っていると思いますが、実現するまでの間、県における補助制度の創設などをご検討いただけますと、ありがたいと考えており、本市では、令和 4 年度にコロナ禍や物価上昇で疲弊する地元業者支援と食育を兼ねた取組として、国の交付金を有効活用しまして、通常の学校給食では価格の面から使用できない地元食材を使用した特別給食を提供しており、児童生徒には非常に好評でございまして、食育の観点からも有意義な取組であったことから、各地域の地場産の食材を学校給食で使えるような補助制度を創設する、そのようなことも国に対して働きかける、このようなことも必要であろうと考えております。

どうぞ、この学校給食の無償化につきましても、ご検討いただきたいと思いますと考えています。以上でございます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。続きまして葉山町の山梨町長、よろしくお願いいたします。

【葉山町長】

はじめに、黒岩知事に、感謝の言葉をお伝えさせていただきます。この一枚目のスライド、無電柱化の写真がありますが、今年の神奈川県さんに発信していただきました「無電柱化プロジェクト～富士山に見えるみち、災害に強いみち～」。三浦半島こそ、富士山が最高に見える、日本で一番の半島だと思っていますよね、皆さん。それ以上は、うちのまちが一番と皆さん思っているのです、それ以上は言わないですけども、松尾市長が「無電柱化を推進する市区町村長の会」の会長を今されていて、松尾さんが会長になったら、なぜか私が幹事に引き上げられてしまって困ってるのですけれども、困ったところに、まさに知事の発信がありました。

無電柱化の目的ももちろん災害がメインでいいと思うのですが、そこに付加価値として景観というものはとても大事だと思います。葉山町でも、県土木さんと、ずっとこの間協議させていただいて

おりまして、まずはこの災害の拠点となる消防署、町役場周辺を、この写真は AI で加工してみたのですが、このようにしていこうということを、今、一緒に取組をさせていただいております。勉強会も重ねまして、本当にどうもありがとうございます。知事のお気持ちには、きっと海岸があると思います。海岸の写真を撮る方がいっぱいいるのですが、写真に全部電線が入るのですね。なんとかならないのか、ということとはよく言われていましたし、葉山御用邸も海岸線にあるので、本当にとても大事な取組として、しっかりついていきますので、よろしくお願いしたいと思います。

無電柱化の話をお伝えさせていただきましたが、この後、細かい話なのですが、先ほどから、感謝の言葉をということで申し上げておりますが、県さんに本当に動いていただいております、県土木事務所さんが、長年の課題であったバスベ이를設置していただきました。町のほうで、現場で協議をして、地権者に改築の際にセットバックしていただけないかとお願いをして、この子どもたちが並んだり、雨の日に並ぶと人が全く通れない、そんな歩道に、こういう大きい空間を地権者の方に協力していただき、県土木さんがこうやって綺麗に整備をしてくれました。非常に連携が取れて、地域が変わっていく大事なポイントを形にできたこと、本当に心から嬉しく思っております。また余談なのですが、この工事の際に、この上りの先にある小さいグレーチングを、10 箇所ほど整備してくれて、本当にそういう細かい、痒いところに手が届くというようなことをやっていただけている、その知見と動きには本当にありがたいなといつも感じているところでございます。ぜひこれからもよろしくお願いいたします。この後のスライドは、ここも未整備箇所がありますといった、引き続きよろしくお願いをしたい部分です。町の方で、土地を確保するので、ぜひ買っていていただきたいと思いますということを申し上げます。

続いて、昨年度からいろいろと問題提起しているのですが、神奈川県どこか日本中で起きているということも、その後確認が取れて、課題として皆さんと一緒に共有したいと思ったところです。葉山町で県道 311 号、逗葉新道を降りて、鎌倉に向かっていく通り沿いは、市街化が進んでいます。クリエイトさんが写真で写ってますけれども、反対側にローソン、かつやさんなどがあって、この道路を横断する方が多いのですね。すごく多くて、警察にお願いしたのですが、直近に横断歩道が二つあることから、適さないということで横断歩道が設置できないので、大きい駐車場に車を停めて相互に渡り合う方が非常に多い状況です。これ意外とすごく難しい課題でして、解決できないまま、県議の方も、国会議員の方も、国に話し合ったけれども、なかなか難しいね、ということで止まってしまっています。ただ、全県でこういう危険箇所があると県議の方もおっしゃっていたので、なんとかみんなで知恵を寄せ合って、変えていきたいと思っている、安全確保のためになんとかしたいなと思っていることを共有させていただきました。

この後、今日の本題だったのですが、桐ヶ谷市長が全部言ってくれたので、どんどん飛ばしながら進めて、桐ヶ谷市長のおっしゃるとおりというところが葉山町も起きております。左の表のところだけ見ていただくと、葉山町一般会計 130 億円で町税収入 60 億円ぐらいなのですが、7,000 万円単費で教育の支援員、教員を雇っております。年々増えているのですが、桐ヶ谷さんと全く同じで、教育は最大の投資であり財産なので、決して手抜きをしたくないと思うと、ここは本当に大事なポイントですが、その分負担は大きくなってきております。そこに、私たちはスクールカウンセラーとして表記しましたが、いろいろなお子さん、いろいろなご家庭が本当に増えております。不登校というのも、今オルタナティブスクールやフリースクールで家で学ぶということも、地域で学ぶということも、いい時代だというふうになってきて、支援していますけれども、やはり学校から離れると、例えば検診が受けられない、イベントに参加できない、子どもが何するか分からないということに、スクールソーシャルワーカーの役割がとても大事で、家に訪問してもらっています。件数もどんどん増えているところです。要望事項として文字が並んでいますけれども、一番下だけご覧いただきますと、スーパーバイザー、これは町独自に設置していますが、教育関係者が本当に疲弊してしまっていて、教員のなり手不足、まさにその象徴だと思うのですが、そういった方々に、精神科医を相談先として町で措置しております、メンタルをやられないようにフォローアップをしています。また、スクールロイヤー、神奈川県さんでお二人配置していただいておりますが、お一人はどうやら県立高校のご担当とお聞きしています。全県で、小・中学校では、お一人しか

対応できなくて、なかなかこの方の予約が取れないということで、ぜひこういうところも増員していただけたらありがたい。

同時に、放課後や土日に遊ぶ場所として、インクルーシブなまちづくりを進めております。町でも独自に1億円単費で入れて、都市公園に大きくインクルーシブエリアを、今年7年度に完成するのですけれども、作ってきました。ただ、金額が高いのですね。一般の遊具に比べて、1個作るだけで、かなり金額が高くなるところが課題です。ちょっとずつ遊具を整備すると、そのようなところに行ってもしょうがない、という声が返ってきます。ですので、ある程度の規模で整備したいのですけれども、交付金、補助金で、なかなか活用できるメニューがありません。先ほどの都市公園で整備しようと思った時にも、社会資本整備総合交付金が使えないのではないか、と言われたのですけれども、計画とパックで2億5,000万円の規模でないと社会資本総合整備交付金は使えないと言われてしまって、さすがに2億5,000万円の予算は町でも計画を立てられなかったもので、単費で整備しました。町村という規模の弱さもあると思いますし、こういった小回りのきいたというところにおいては、相変わらず、単体でやらなければいけないので、学校の支援と同時に、地域のインクルーシブな空間を作るというのは非常に難しいなというを感じているところでございます。とはいえ、『ともに生きる』は本当に大事なフレーズだと思っているので、なんとか形にしていきたい、頑張っていきたいと思います。最後に、問題ばかりで恐縮なのですが、ご多分に漏れず、皆さんも一緒だと思いますけれども、公共施設の老朽化の問題です。6月に公共施設等将来構想を出しました。子どもが減っていて、学校も1校でいいのではないかと、という議論もあります。中段に196億円の事業費が学校だけで見込まれています。将来構想には、他にも町内会館とか公園とか町役場なども色々入っているのですが、その中の一つがこの196億円の事業費でして、先ほど申し上げたとおり、一般会計130億円の予算しかない我々にとっては、とても大きな課題です。

こういった点に関しては、お金ももちろんなのですが、こういった手法で、例えば、神奈川県産の木材を使うと安くなるよ、とか、防災機能を入れるとこういうふうに使えて児童生徒も使えるよ、とか、いろいろな知恵が働くところがあると思うのです。ですが、町村ですと担当者2、3人で議論して、その後4、5人で話し合うとか、それが現実ですので、ぜひ皆さんからのいろいろなお知恵をいただければと思います。誰もが思っている自治体の課題ですので、何か、こういった手で、というのをぜひアドバイスいただけたらな、ということをお願いしていただきました。葉山町からは以上でございます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。それでは各市町長からのご発言に対しまして、知事からご発言をお願いいたします。

【黒岩知事】

ずっと話を聞いていて、知事になって15年になりますけれども、三浦半島の活性化というのは、自分の中でもすごく大きな課題だったなと改めて思いました。私はいきなり知事選挙に出たものだから、当時はよそ者の目で、選挙活動で回っているときに、一番驚いたのは城ヶ島だった。30年くらい前に来た時は、すごく賑やかで、いいところだな、と思ったところが、寂れ果てていたというところで、なんでこんなことになっているのかな、というところが原点だった。それで、知事になって、なんとかこのところを、かつての賑わいを戻せられないかな、と思ったけれども、その中でこの神奈川全体で見た時に観光地はどこがあるのだとなったら、横浜、鎌倉、箱根が出てくるけれども、次は、となった時になかなかすぐ出てこないという状況の中で、では、新たな観光の核を作ろうということで、やりましたけれども、それも県がいきなり、はいここだ、というのではなく、競い合ってくれという形でやったのです。その時に外部のアドバイザリーボードで、皆さんに選んでもらって、皆さんにプレゼンテーションしてもらったけれども、見事に最初のプレゼンテーションでは全部落選。たまたま、三崎・城ヶ島の話だけは、もう一回聞いてみたい、ということになり、もう一回やって、そこで、これならいけるだろうな、となり始まった。そこで終わりにしたのではなく、その後もう1回やって、大磯、大山が選ばれて、3つが新たな観光の核づくり事業ということで、そこに予算も集中的に投入してやってきた中で、三浦半島は見違えるようになってきた、と実は

思っている。城ヶ島ダイビングセンターも崩れかけていたのが、綺麗に整備され、そこにはプールもできたし、釣り堀もできたし、二町谷はどうなるのかと、これもスーパーヨットの拠点になってくるとか、一番大きな課題だった城ヶ島の先にホテルがあったのだけれども、それも建て替えて、高級旅館ふふがいよいよオープンするようになってきて、どんどんよくなってきたなということがあり、そのような中で、私が三浦半島の中ですごく注目しているのは、一般の市民の方からの提案といったもの、これが大きく動いているということです。先ほどご紹介ありましたが、横須賀の長谷川りえさんという料理研究家、彼女は三浦半島というのはイタリア半島と形が似ているよね、と、ただそれだけの発想の中で、三浦半島はイタリア半島プロジェクトという企画書を自分で書いて、横須賀の商工会議所に持って行った時に、これ面白いね、やろうとなったというのが始まりの話です。

それを県が受け止めて、三浦半島はイタリア半島プロジェクトといっても、三浦半島が全部イタリアの真似っこするというのは、それは違うだろう、と。でもよく調べてみると、アルベルゴディフーゾというその地域再生のコンセプトに出会って、これなら三浦半島で行くのはちょうどあっているなと思ったら、ホテルのようなまちというか、今はCFネッツもずっとやってくれているけれども、三崎・城ヶ島の商店街でも、蔵や古民家がどんどんホテルのようになっていたりして動き始めてきている。どんどん良くなっているという形があって、これをワクワクするような思いでいる中で、やはり、浦賀の話というのは、僕はものすごく関心があって、浦賀というのはよそ者の目から見た時に、浦賀という名前はすごく有名。浦賀から日本の近代化が始まったということは皆知っているけれども、知事になってから行って見たけども、何もなし。何かあるのかと思ったら何もなしからびっくりした。そこに浦賀ドッグというのがあって、そこを見てみたら、これはすごいな、と思って、それでなんだこれかと思った中で、上地市長が一生懸命取り組んでくださって、これが具体化してくるという。スピードが大事だというのは、私もそう思います。ここが本当に化けたら、赤レンガ倉庫みたいな、ああいう昔ながらのものが生きて、現代風になって動いてくるとなったら、ものすごい大きな力になるなというふうに思っていて、私もどんな事業者決まるのか、そしてどんな形で進んでいくのかということが、本当に楽しみでならないというところがあります。

民間の発想という、もう一人、リビエラリゾートが非常に大きいかと思っていて、渡邊華子さん、という方がいて、どんどんアイディアを出してくれて、それでSDGsの作品大賞などをやって、いつも市長、町長と一緒に、子供たちの作品に触れてということもあったけれども、今度は湘南国際芸術祭という発想をさせてくれて、湘南を全部海に絡めて、芸術のポイントを全部いっぱい作って、そこを全部海で回ってほしいみたいな、壮大な発想も、民間からできているということがあって、こういうのはやはり面白いなと思っている。そういう意味で、この三浦半島全体を俯瞰して見ると、ワクワクするぐらい、私は面白くなってきているな、という感じがするのですよね。ですから、この流れを、県と一体となって、どんどん突き進んでいきたいと改めて今日思いました。具体の話の中で、民泊ということも、これも非常にその重要な要素であるのだけれども、様々な課題もあるという中で、どう乗り越えていくのかということ、様々な知恵を出さなければいけないなと思いましたけれども、やはりそういうことも県と一体となって、お互いに知恵を絞りながらどうやって取り組んでいくのかということ、是非やっていきたいなと思いました。

レスポンシブルツーリズムという言葉をお教えいただきましたので、どうやってそれを実現するのかということなども、考えていかないといけないな、と思ったところでありました。そのような中で、この2年後には、GREEN×EXPO 2027があります。これに合わせて、JRでデスティネーションキャンペーンというのを我々は勝ち取ったわけでありまして、もう来年から始まりますけれども、つまりGREEN×EXPO 2027に来てくださいというのに合わせて、神奈川に来てください、ということなのです。是非イメージして考えて欲しいのですけれども、GREEN×EXPO 2027に来た人が、見終わった後に、三浦半島にどうやってくるか、という仕掛けをちゃんと作らないといけない、これを地域別に懇談していると、だんだんそれぞれの課題が見えてきたのですが、会場の最寄り駅は相鉄線の瀬谷駅だけれども、相鉄線の駅で降りて、会場にバスで着いて、瀬谷駅に戻ってきたら、その人はそのまま横浜を通らないで、東京に戻ってしまうという可能性が非常に高いわけです。この人たちがどういう動線でこの三浦半島に持ってくるかという仕掛けを考えておかないと、お客さんが来

るから、デスティネーションキャンペーンをやってるからなんとか大丈夫だろうと思ったら、実はするっと滑っちゃうという可能性があるんで、今からしっかりと体制を整えたいなというふうに実は思っているところです。その意味でも、GREEN×EXPO 2027 を盛り上げていくということをぜひお願いしたいと思っています。2年後に GREEN×EXPO 2027 があるということ自体が、まだまだ認知されていないのですよね。ですから、盛り上げていくために、横浜のイベントだという位置づけでやってらっしゃるかもしれないけれども、そうではなくて、神奈川全体のイベントだという受け止めをしていただいて、神奈川全体で盛り上げていくということをぜひお願いしたい。その盛り上げるというのも、ほぼ全員参加型のようなイメージで考えています。

実は大阪・関西万博、私2回行ったのですが、神奈川でSDGsの催しで出ている時があったのだけれども、そこで例えば神奈川の農業高校の学生さんたちが、高校生たちが箱庭を作って持っていったのですね。ああいう形で箱庭っていう形で出ると言ったら、やっぱり県内の全部の学校が自分たち箱庭作って持っていくとかいうような形にすると、ただ単に GREEN×EXPO 2027 やってるから、見て楽しいよとかではなくて、自分たちも参加したのだというような感じ。こういうのをぜひ持っていきたいなと思っています。我々神奈川県の出展とミュージカルショーというのを準備しているのですが、ミュージカルショーに合わせて絵本を作ろうとしています。今回の神奈川県の出展のテーマは Vibrant INOCHI、いのち輝く、というのを英語にして、Vibrant INOCHI、という、僕はSDGsの次のコンセプトにもなり得るのだといったイメージで、Vibrant INOCHI を発信していきますけれども、それをコンセプトとして絵本を作っています。1年ぐらいかけて内容を詰めてきて、絵もだいたい出来上がって、今その完成に向けて動き始めているところですけれども、これが完成したらもう全部の学校に無償で配りますから、この機運醸成時にも使っていただきたいと思うし、それに合わせた形でのミュージカルショーといったものをやろうとしています。役者さんが出て、ただ単に歌う踊るだけではなくて、映像も込みでやっていこうとしていますので、例えば、その映像の中に横須賀のシニア劇団「よっしゃ!!」の人が出てくるとか、シニアダンスのチャレンジ・オブ・ザ・シルバーでやっている人が出てくるとか、いろんな人が参加して出てくるとかいうような流れを作って、みんながちょっとなんかで出ているとか、参加しているとかいうような、全体を盛り上げていくような、そんな GREEN×EXPO 2027 にしていきたいと思っています。そういうプロセスを経て、機運醸成ということで、GREEN×EXPO 2027 を大きなイベントにしていきたいと思っていますので、ぜひ皆さんのご協力をよろしくお願いしたいと思います。

そして、皆さんからいただいた後半の要望の部分については、必要に応じて来年度の予算措置に反映してまいりたいと考えております。また皆様から例年、市長会、町村会を通じて、翌年度予算に関する要望をご提出いただいておりますので、その各項目については、当初予算成立後に文書で回答させていただきたいと思っております。

災害に関して皆さんにお願いしたいことがあります。個別避難計画の作成についてなのですが、令和3年に災害対策基本法の改正が行われまして、個別避難計画の作成というものが市町村の役割になりました。これは要配慮者で、高齢者や移動が困難な方が、一人ひとりがどこへ誰とどのように避難するのか、これを普段から決めておいてくださいということなのですね。これまでは市町村においては、一人暮らしの方や被害想定区域にお住まいの方など、特に優先度が高い方から計画の作成を進めてきていただいているところですけれども、資料を見ていただくと分かりますけれども、神奈川県の個別避難計画作成率というものは、わずか2.2%で全国最下位となっているのです。

このことについて神奈川出身の防災担当大臣であります坂井大臣からこのことを指摘されたということがありました。遅れをとっているということはとても残念なことなので、なんとかして一気に取り戻していきたいと考えています。防災に関しては、防災DXを進めてまいりましたけれども、これはもう、様々なデータを重ね合わせることによって、誰一人も逃げ遅れがないような、そんな仕掛けを作っていこうということをやっておりますけれども、その時には、例えば、ここに移動困難な人がいると、この人は浸水予測図のこの中にいると、だから天気予報の線状降水帯のデータがこうやってかぶって、そしたら、この人はいつ、どのタイミングでどこへ逃げればいいのかといった時に、この人一人で移動できないから、誰が助けに行くのかとか、どの避難所に行くのかといったよう

なことを全部データで、プッシュ型で誘導していくというような防災ＤＸをイメージして考えておりますけれども、これを進めていくためにも個別避難計画の作成というものが必要でありまして、そういう意味で、市町村の皆さんに遅れている部分を圧倒的に取り戻す、全国トップになるようにですね、頑張っていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。それでは、そろそろ時間もまいりましたので、本日はご議論ありがとうございました。

以上をもちまして、令和７年度横須賀三浦地域首長懇談会を閉会させていただきます。本日はお忙しい中、長時間にわたり誠にありがとうございました。